

民俗芸能学習により人と地域に思いを寄せ、先端科学技術を駆使して新しい価値・未来を創造するに要するインスピレーション・人としての素養を学ぶ総合知プログラム

北里大学 一般教育部(安倍 希美)

伝統芸能・民俗芸能には、インスピレーションを掻き立てる力がある。本プログラムでは民俗芸能を通じた感性の育成を目的に、民俗芸能学習オンライン教材を作成した。プログラム参加者は、はじめに、乳幼児・動物・スポーツなどの身近なからだの動きの理解から始め、次第に伝統芸能や民俗芸能の動きを理解する。これらの学習を通して、参加者は芸能そのものに関心を持ち、民俗芸能が抱える問題を理解する。また自分の考えや各学部の様子の記事交流、更に民俗芸能を介した他者理解を通じて自己認識の深化を図っている。今後は授業以外に、一般の人と民俗芸能、芸能関係者の繋がり場の構築などが検討されている。

総合知により目指すビジョン / 解決する社会課題

「健康の科学A」での民俗芸能学習により、芸能の背景や関わる人々の思いに触れ関心を深める。将来的にはインスピレーションと知の集結が活かされることで、民俗芸能と自然が持続可能な形で守られ、関わる人々のWell-beingが実現される社会を目指す。

「矩」を超えた場づくり/参画しているステークホルダー

発育発達・舞踊学・民俗学・自動運転等の専門家、民俗芸能保存団体、行政関係者、小鹿野町の町長・文化センター職員、オンデマンドにてLMS(Learning Management System:学習管理システム)で学び合う大学全学部1年次生の履修者等が参加している。

総合知人材の育成方法/育成方法の工夫

学校教育では、全学部(新潟を除く8学部)の1年次生140名程がLMSを活用した一般教育科目で、多様な知の集結を行っている。外部に向けては、教育内容と効果、芸能団体の継続への工夫、小中学校での芸能体験学習、民俗芸能の持続に関与する行政の支援といった事例紹介などから、多様な知の連携が検討されている。





概要

伝統芸能・民俗芸能には、インスピレーションを掻き立てる力がある。
民俗芸能は地域と自然と密接に関わり、それらを写す鏡のようである。

民俗芸能を共に学ぶ事により、課題を共に解決し望ましい未来を創造する。



▶ 取り組み1. 民俗芸能への理解を共に深めるオンライン教材の作成 (全15回)

(動作学・舞踊教育・幼児教育・社会教育・社会福祉・自動運転等の専門家の意見を参考)

学習テーマの段階 乳幼児 → 動物 → スポーツ → 伝統芸能 → 民俗芸能 と進む
学習内容 姿勢、身体部位名称、運動制御、筋骨格系、関節、関節可動域 など
伝統芸能・民俗芸能の動作特性 → 動きの意味の解読
民俗芸能に興味を持ち、現在の民俗芸能が抱える問題を理解する。

▶ 取り組み2.

- ▶ 大学1年次生へのオンライン教育 (全学部対象)
民俗芸能学習に関する学生の感想記述には
「衝撃を受けた」「血が騒ぐ」等があった。

様々な学部の学生とフォーラム機能を利用した意見交換
より知の共有・連携を体験し、自身の思考も深化した。

▶ 取り組み予定

- ▶ 一般社会に向けて
オンライン教材の提示
芸能団体の課題と解決への取り組み・
行政の取り組み・芸能体験教育の紹介など

以上等より知の共有・連携が可能となる
インターネット上の場の提供。

- ▶ 目標 インスピレーションと知の共有が「善用」され、豊かな
自然と民俗芸能が持続可能なウェルビーイングが実現される社会。



インスピレーションを齎す民俗芸能



地域と自然を映し出す民俗芸能

